差別事例分析表

その他

1「障がいを理由とした差別的取扱い」と考えられる募集事例

種別	募集事例	対策	事例対応策（案）	差別解消法	千葉県条例	北海道条例	岩手県条例	さいたま市条例	熊本県条例	八王子市条例
視覚	【事例 22】テーブルの席を変えてほしい時、担当者から「あなたは目が悪いからダメ」と言われる。(65 歳／男性／中央区)	未然防止策	①条例に「差別的取扱い」を禁止する規定を設け、市民への周知を図る ②市民・事業者等に対して、障がいや障がい者への理解を深める周知啓発を行う ③市・事業所の職員に対して、障がいや障がい者への理解を深める研修を実施する	差別の禁止（第 7 条　行政機関等の不当な差別的取扱いを禁止／第8条　事業者の不当な差別的取扱いを禁止） 周知啓発（第 15 条　啓発活動の推進 環境整備（第 5 条　行政機関等及び事業者は、必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、自ら設置する施設の改善・関係職員に対する研修等の環境整備に努める）	差別の禁止(第2条　「不利益取扱い」等を、「差別」と定義。なくすべき「不利益取扱い」を分野別に具体的に定める／第8条　差別の禁止） 周知啓発(第4条　県は、障がいのある人に対する理解を広げ、差別をなくすための施策を策定し、実施する／第 6 条　県民は、障がいのある人に対する理解を深めるよう努める）	差別の禁止(第20条　道及び道民は、差別や「不利益な扱い」をしてはならない） 周知啓発（第 6 条　道民等は、障がい等に対する理解を深める／第 10 条　道は、障がい等に対する理解を深めるよう、普及啓発等，必要な措置を講ずる）	差別の禁止（第 2 条　差別をすること等を、「不利益な取扱い」と定義／第7条　不利益な取扱いの禁止） 周知啓発(第4条　県は、障がいについての理解の促進等に関する施策を策定し、実施する／第 6 条　県民等は、障がいについての理解を深める） 研修（第 10 条　県は、全職員が障がいについての知識等を深めるために必要な措置を講ずるよう努める）	差別の禁止(第2条　「差別」となる行為について、分野別に具体的に定義／第9条　差別の禁止） 周知啓発（第 5 条　市民及び事業者は、障がい者に対する理解を深める）	差別の禁止（第 8 条　不利益取扱いの禁止について、分野別に具体的に定める） 周知啓発（第 6 条　県民は、障がい者に対する理解を深める／第 21 条　県は、障がい者に対する県民の理解を深めるため、啓発活動の推進等，必要な措置を講ずる）	差別の禁止（第 6 条　差別の禁止） 周知啓発(第4条　市は、障がい等への理解を広げるための施策を実施する責務を有する／第 5 条　市民等は、障がい等への理解を深める／第8条　市は、障がい等への理解を深めるよう必要な措置を講じる） 研修（第 8 条　市は、全職員が障がい等に関する理解を深めるための必要な措置を講じる）
		事後対応策	①相談・紛争解決機関を設置し、相談・助言・あっせん・勧告・公表等を行う	相談・紛争(第 14 条　国及び地方公共団体は、障がいを理由とする差別に関する相談及び紛争解決の体制の整備を図る）	相談（第 14～19 条　地域相談員・広域専門指導員） 紛争解決（第 20～28 条　障がい者差別に係る紛争解決のための手続(助言・あっせん・勧告)）	紛争解決（第 41～48 条　障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会(指導・勧告・公表)）	相談（第 15 条　県が相談に応じ、これに対する助言及び調整等必要な措置を講ずる）	紛争解決（第 10～15 条　障がい者差別に係る紛争解決の仕組み(助言・あっせん・勧告・公表、権利擁護委員会)）	相談（第 11～15 条　不利益取扱い等に関する相談） 紛争解決(第 16～20 条・第 22 条　不利益取扱い等に該当する事案解決の仕組み(助言・あっせん・勧告・公表、調整委員会)）	相談（第 15 条　差別に対する相談・助言等／第 16 条　相談員） 紛争解決（第 17～21 条　障がい者差別に係る紛争解決の仕組み(助言・あっせん・勧告、調整委員会)）
視覚	【事例 192】地元で開かれている公会堂を会場とした地域の茶の間に参加しようとしたところ、「盲導犬は玄関先で繋ぎ、中には入れないように。」と言われた。（西蒲区）	未然防止策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		事後対応策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

種別	募集事例	対策	事例対応策（案）	差別解消法	千葉県条例	北海道条例	岩手県条例	さいたま市条例	熊本県条例	八王子市条例
肢体不自由	【事例 101】免許を取得したかったが、断られた。（67 歳／男性／南区）	未然防止策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		事後対応策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
精神	【事例 95】アメリカに１年間ベビーシッターをしながら、住みこみで働くプログラムに応募したところ、「精神障がい者だからあなたに合う家庭はありません」と言われて断られたこと。（29 歳／女性／東区）	未然防止策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		事後対応策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

２「合理的配慮の不提供」と考えられる募集事例

種別	募集事例	対策	事例対応策（案）	差別解消法	千葉県条例	北海道条例	岩手県条例	さいたま市条例	熊本県条例	八王子市条例
肢体不自由	【事例 173】車イスの場所がとても目立つ場所にあり、注目され、一般用のイスに移ろうと思っても、階段があり、とても不便なことがありました。(15 歳／男／江南区)	未然防止策	①条例に「合理的配慮の不提供」を禁止する規定を設け、市民への周知を図る ②市民・事業者等に対して、障がいや障がい者への理解を深める周知啓発を行う ③市・事業所の職員に対して、障がいや障がい者への理解を深める研修を実施する ④市・事業所の職員が、各障がい者の障がい特性に応じた配慮を行う	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 7 条　行政機関等は、合理的な配慮をしなければならない／第8条　事業者は、合理的な配慮をするように努める） 周知啓発（第 15 条　啓発活動の推進） 環境整備（第 5 条　行政機関等及び事業者は、必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、自ら設置する施設の改善・関係職員に対する研修等の環境整備に努める）	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 2 条　「合理的配慮の不提供」等を、「差別」と定義／第 8 条　差別の禁止） 周知啓発(第4条　県は、障がいのある人に対する理解を広げ、差別をなくすための施策を策定し、実施する／第 6 条　県民は、障がいのある人に対する理解を深めるよう努める)	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 20 条　道及び道民は、学校、公共交通機関、職場その他障がい者が生活をするために必要な場において「合理的配慮」に努める） 周知啓発（第 6 条　道民等は、障がい等に対する理解を深める／第 10 条　道は、障がい等に対する理解を深めるよう、普及啓発等，必要な措置を講ずる）	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 2 条　「合理的配慮の不提供」等を、「不利益な取扱い」と定義／第 7 条　不利益な取扱いの禁止） 周知啓発(第4条　県は、障がいについての理解の促進等に関する施策を策定し、実施する／第 6 条　県民等は、障がいについての理解を深める) 研修（第 10 条　県は、全職員が障がいについての知識等を深めるために必要な措置を講ずるよう努める）	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 2 条　「差別」となる行為について、分野別に具体的に定義（合理的配慮に基づく措置の不提供含む）／第 9 条　差別の禁止） 周知啓発（第 5 条　市民等は、基本理念に基づき、障がい者に対する理解を深める）	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 9 条　社会的障壁の除去のための合理的配慮がなされなければならない） 周知啓発（第 6 条　県民は、障がい者に対する理解を深める／第 21 条　県は、障がい者に対する県民の理解を深めるため、啓発活動の推進等，必要な措置を講ずる）	「合理的配慮の不提供」の禁止（第 7 条　市、市民、事業者は、社会的障壁の除去を実施し合理的配慮に努めるものと，分野別に定める） 周知啓発(第4条　市は、障がい等への理解を広げるための施策を実施する責務を有する／第 5 条　市民等は、障がい等への理解を深める／第8条　市は、障がい等への理解を深めるよう必要な措置を講じる） 研修（第 8 条　市は、全職員が障がい等に関する理解を深めるための必要な措置を講じる）
		事後対応策	①相談・紛争解決機関を設置し、相談・助言・あっせん・勧告・公表等を行う	相談・紛争（第 14 条　国及び地方公共団体は、障がいを理由とする差別に関する相談及び紛争解決の体制の整備を図る）	相談（第 14～19 条　地域相談員・広域専門指導員） 紛争解決（第 20～28 条　障がい者差別に係る紛争解決のための手続(助言・あっせん・勧告)）	紛争解決（第 41～48 条　障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会(指導・勧告・公表)）	相談（第 15 条　県が相談に応じ、これに対する助言及び調整等必要な措置を講ずる）	紛争解決（第 10～15 条　障がい者差別に係る紛争解決の仕組み(助言・あっせん・勧告・公表、権利擁護委員会)）	相談（第 11～15 条　不利益取扱い等に関する相談） 紛争解決（第 16～20 条・第 22 条　不利益取扱い等に該当する事案解決の仕組み(助言・あっせん・勧告・公表、調整委員会)）	相談（第 15 条　差別に対する相談・助言等／第 16 条　相談員） 紛争解決（第 17～21 条　障がい者差別に係る紛争解決の仕組み(助言・あっせん・勧告、調整委員会)）

種別	募集事例	対策	事例対応策（案）	差別解消法	千葉県条例	北海道条例	岩手県条例	さいたま市条例	熊本県条例	八王子市条例
肢体不自由	【事例 198】行政主催の会議の際、3 階までのエレベーターしかないのに、4 階の会議室で会議が行われた。合理的配慮の欠如に、心が痛みました。介助者は悔しくて泣いていました。	未然防止策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		事後対応策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
内部機能	【事例 126】外出先でストーマ用のトイレ設備がない。(79 歳／女性／中央区)	未然防止策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		事後対応策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
知的	【事例 173】車イスの場所がとても目立つ場所にあり、注目され、一般用のイスに移ろうと思っても、階段があり、とても不便なことがありました。(15 歳／男／江南区)【再】	未然防止策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
		事後対応策	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

３「その他」の募集事例

（１）制度やサービスの改善に関する意見

【事例 4】視野はかなり狭いのですが、視力がまだあるため、投票所へ行くと大きな声で点字ですか？？と聞かれ（投票用紙に点字テープがついてるため）、毎回人に注目を浴びるのでとても嫌な気持になります。手続きをすれば郵送も可能なようですが、その手間が大変で仕方なく我慢しています。（視覚・難病(網膜色素変性症)）

【事例 9】「駐車禁止除外指定車証」の申請を警察署で行うと、「申請書」の他に「身障者手帳の裏表コピー」と「住民票」の添付が指示されるが、障がい者だからと思われる過剰な指示である。(肢体不自由／70 歳／男性／中央区)

【事例 14】障がいは、外見で判断できない。細かい障がい、手帳の色等でサービスが異なるのはおかしい。(精神、発達障がい／39 歳／男性／西区)

【事例 80】障がいも「個性」という社会通念国家にむけ、政治の体制（小学生からの道徳教育の必要性）が早急に必要と考えます。(聴覚・平衡機能／女性／64 歳／東区)

【事例 107】身分証として手帳が使いにくい。(精神、発達障がい／37 歳／男性／西区)

【事例 122】本人が弱者にならなければ自分の事として考えられない社会になっていることに残念に思います。特に、国・地方自治体がもっと現場の情報を習得して、支援の参考にしてほしいと思います。(知的、発達障がい／26

歳／男性／東区）

（２）「不適切な用語・表現」と思われる事例

【事例 15】ひきこもりの人は、マンガ・アニメ・小説では「ヒキ」と言うらしい。こういうセリフや表現をみると悲しくなる。作家は皆、障がい者＝ひきこもり＝クズ人間と見ているのか。（精神、発達障がい／39 歳／男性／西区）

【事例 49】かたわ（片方の手しかきかないなど）と言われ、頭にきた。（音声・言語・そしゃく／55 歳／男性／江南区）

【事例 110】身体的な差別用語を使っている健常者の認識のなさに無知を感じる！！（肢体不自由／50 歳／女性／西区）

【事例 115】「死ね。殺す。きちがい。生活保護。怠け者。」等言われた。「ニート。」と言われることが多い。図書館に行くが、薬の副作用で長時間、眠ることが多い。職員に白い目で見られる。（精神／35 歳／男性／西区）

【事例 196】特に行政職員が障がい者に言及する際、「障がいをお持ちの皆様」と表現することがある。丁寧に表現しようとする意図はよく理解できるが、はたして日本語として適切なのか疑問を感じる。

【事例 197】ニュースなどでマスコミが、例えば、「妊娠中にこの薬を服用し続けると子どもに障がいの出る「恐れ」がある」などとよく表現している。この「恐れ」という言葉は、障がいに対して非常にネガティブな印象を与えるし、それこそ医療モデルとしての「障がい」の捉え方を色濃く反映したもののように感じる。

（３）障がい者が障がい者に行う不適切と思われる事例

【事例 11】障がい者が障がい者をバカにする。

【事例 26】障がい者に関わる差別や偏見の問題が取り上げられる時、とかく障がいのある人とない人との間の関係性が問題となるが、はたして障がい者同士は、それぞれの違う障がいを深い理解を持って受け止めているのか、障がい者の間で他の障がいに対する差別や偏見はないのか、その点についても謙虚に向き合って行かなければならないと思う。

【事例 33】利用者の中でも知的レベルの高い利用者が「こんな施設にいるとバカがうつる」等という見下した発言をする。

（４）障がいに対する無理解・誤解・偏見等がある事例及びその他の不適切な事例等

【事例 1】道を歩いていて他人からバカにされ笑われる事です。（肢体不自由(上肢障がい)／20 歳／女性）

【事例 2】様々な事例を応募してどうするのですか？お言葉ですが、限られた人だけで会議しても、何も変わりません。（肢体不自由(上肢障がい)／20 歳／女性）

【事例 3】網膜疾病のため、見た目では障がいがあると分かってもらえない。（視覚／41 歳／女性／西区）

【事例 7】ごみ箱をあさっている人に、顔面を殴られ、口の中をきったので、交番に申し出たら、警察官に「あなたもじっと見てたんでしょ」とそっけなく言われた。（知的／36 歳／男性／東区）

【事例 10】車椅子使用の難病の方が、他の客から「あんな風にはなりたくないよな」と言われていた。（難病）

【事例 12】病気がうつるからあっちに行けよと、いじめる。

【事例 13】知的障がい者をバカ扱いする。（知的）

【事例 16】じろじろ見られる。（知的／39 歳／女性／北区）

【事例 19】他人や仲間の来客の際には、追い出され会話に入れない。仲間外れにされる。（視覚）

【事例 20】うつ病が治り、働いている息子から、普通の人と同じ扱いをしてほしいとよく言われた。（病気だからと言って、行動を制限される。可能性を潰される）（精神／37 歳／男性／西区）

【事例 21】自宅の車庫のシャッターに英語で suicide（自殺）と落書きされた。（精神／48 歳／男性／中央区）

【事例 23】からかわれる。例えば、笑いながら誘う。そういうことは、止めてほしい。（視覚／65 歳／男性／中央区）

【事例 24】町内を徘徊中、警察に通報されパトカーに乗せられる。（知的／40 歳／男性／中央区）

【事例 25】障がい者関係の施設を設置しようとしたところ、その地域住民から反対の声が上がり、断念せざるを得なかった。

【事例 27】ダウン症等染色体異常の胎児をターゲットとした新しい出生前診断が新潟大学でも始まりました。何年も前ですが、今回より精度も低く、また今回同様関係学会も「広く妊婦に薦める検査ではない」としていたトリプルマーカー検査が話題になった頃、他の障がいのある子供の家族から「あなた達の子供の障がいは、生む前に分かるのだから、福祉支援は私の子供のように分からない子供に使うべき」と言われたケースがあり、該当障がいの母たちの間で話題になりました。（知的）

【事例 28】親が死んだ時も、葬式に参加させてもらえなかった。親戚・地域の結婚式にも出してもらえなかった。（視覚／60 歳／女性／東区）

【事例 29】市役所の人が、「記録させてください。写真を撮ります」と言って、写真を撮ったが、視覚の人は、全部後ろ姿だった。（視覚／70 歳／北区）

【事例 34】発達障がいによって自分の都合しか考えられなかったり、人の物を盗ってしまったりして、周囲への迷惑行為や犯罪行為が繰り返されることによって信頼を失ってしまうし、周囲と良好な関係が築けなくなってしまう。

【事例 35】学生時代に身体障がいの方の介助ボランティアをしたことがある。相手の方が「自分は障がい者なのだから（介助を）やってもらって当然。」と主張していて、やや威張った態度を取られたので、「でも互いの信頼関係も大切では？」と答えて口論になったことがあった。相手の方は介助なしでは生活が難しいので間違ったことを言っているわけではなく、自分も好きでボランティアを申し出たにも関わらず、互いに歩み寄れなかった事があった。

【事例 36】子どもの頃から現在まで、家から出してもらえない人がまだまだいる。（知的／女性）

【事例 37】私が子どもの頃、屋根のある金網小屋に、犬用の首輪で繋がれていた知的障がい者がいた。（知的／男性）

【事例 38】夫が、ほとんど視力のない妻の面倒を見なかった。（視覚／女性）

【事例 39】食事の時、家族は茶の間で、彼は台所の板場で、一人で食べていると言って泣いていた。年金は、兄嫁が管理し、タバコを買うお金も持っていない日が多い。（聴覚・平衡機能）

【事例 40】Ａさんは、友人に「精神科退院後、夫と長男に部屋に鍵を掛けられて監禁されていた」と話していた。（視覚、精神／女性）

【事例 42】店等でみんなのやり方と同じでないと変な目で見る。（知的、発達障がい／39 歳／女性／西区）

【事例 43】身体的な障がいで、行動範囲は限られること自体、本人も家族も、とても大変で嫌な思いをしている。（肢体不自由／54 歳／男性／中央区）

【事例 44】変な目で見られる。駅で友人を待っていたら、中学生ぐらいの人が瓶か缶をなげてきた。（知的、発達障がい／22 歳／男性／西蒲区）

【事例 45】幼少時に真似をされたことが嫌だった。（肢体不自由／54 歳／女性／西区）

【事例 47】歩いていると必ず振り向かれる。（知的／30 歳／女性／江南区）

【事例 48】嫌なことをされたり、嫌みを言われたりする。（肢体不自由／65 歳／女性／東区）

【事例 50】地域（町内）の役員からセクハラ、年金の事で嫌な言葉を浴びせられた。（知的、発達障がい／32 歳／男性／東区）

【事例 51】近所の人とあまり馴染めない。（知的／60 歳／男性／西区）

【事例 52】歩や買い物時に、奇妙な目で見られる事が多い。（知的／43 歳／女性／中央区）

【事例 53】買い物等に一緒にスーパー等へ行くと、廻りのお客さんが「ジロジロ」と見ている。（66 歳／女性／秋葉区）

【事例 55】障がい者ということで、本人（家族も含めて）においては、あらゆる面で差別対応がある。（聴覚・平衡機能、知的／54 歳／男性／中央区）

【事例 56】知らない人に「この子、おかしい」と指差しされた。（知的、発達障がい／26 歳／男性／中央区）

【事例 57】親戚から、嫌われている、帰れるところがない。（聴覚・平衡機能、知的／66 歳／女性／西蒲区）

【事例 58】スーパーに入るとジロジロと振り返って見られる。（肢体不自由、知的／47 歳／女性／西区）

【事例 59】地域により、知的障がいがあると、偏見の目で見る場所がある。（視覚、知的／53 歳／女性／江南区）

【事例 60】小さい頃、電車の中、バスの中で、大声を出した時。大きくなっても、一人言を言う時。何でもないのに、にこにこと言うか、にやにやした時。（知的、発達障がい／42 歳／男性／西区）

【事例 61】電話で話していると、「何を言っているか分からない」と嫌な言い方をされることがよくある。（通販の電話や、医療機関の窓口、初めての相談等。）（肢体不自由／49 歳／女性）

【事例 62】バスの中等、人の多い所で大きな声を出したりして振り向かれる。こだわりが強いので（反社会的なことも）補導されたりする。（知的、発達障がい／42 歳／男性／北区）

【事例 63】特別な目を向けられる。（音声・言語・そしゃく、肢体不自由、知的／74 歳／男性／秋葉区）

【事例 64】バカだと言われた。（知的／55 歳／女性）

【事例 65】バカにされること。何もできないと決めつけられてしまうこと。（肢体不自由／66 歳／女性）

【事例 66】バスに乗った時、学生が座席にカバンを置いて座わらせなかった。（肢体不自由／66 歳／女性）

【事例 67】パニックになり、大きな声を出した時に、睨まれたり、文句を言われた。（知的、発達障がい／21 歳／男性／西蒲区）

【事例 68】人から嫌な目で見られたり、バカにされるのが嫌だ。（肢体不自由／62 歳／女性／北区）

【事例 69】歩道を電動車イスで移動している時に、若い学生さんに「この人あぶないな」と言われた。（肢体不自由／52 歳／女性／西区）

【事例 70】兄の障がいを理由に、弟がいじめや偏見、差別を受けて、とてもつらい思いをしていた。（知的、発達障がい／23 歳／女性／秋葉区）

【事例 71】町に散歩にいった時、買物に行った時とかは、町の人が私を目で見ているようです。（知的、発達障がい／44 歳／男性／東区）

【事例 74】公共の施設に行った際、困ったことがあり、質問したところ、ボケ老人扱いをされ、後日付き添いで家族が行った際も迷惑がられ、その後、その場へは用事があっても行きづらくなったこと。コミュニケーションがうまく取れないことに、本人も大変不安とやり切れなさを感じているのに、障がいで片付けられるのはどうか。（精神／男性／69 歳／東区）

【事例 75】妹に「身体障がい」と言われて、馬鹿にされた。薬について馬鹿にされた。（精神／女性／32 歳／東区）

【事例 77】小学生のころ、親や先生や友達に色々注意を受けたこと。（知的、発達障がい／男性／20 歳／西区）

【事例 78】世間に知られないように本人を隠す、隠される。（知的／男性／43 歳／中央区）

【事例 81】「ありがとう」「お願いします」と伝える声が、小さくしか出ないために、相手から不審に思われることがある。（男性／68 歳／北区）

【事例 82】知人より「頭がおかしいんじゃないのか。」と言われた。（精神／男性／60 歳／西区）

【事例 83】行事参加の案内、招待が少ない。（知的／男性／28 歳／西蒲区）

【事例 84】外見は健常者と変わりないように見えますが、動作で痛みがあり、肘が伸びないので人を気にする。自分に対する陰口を多く耳にするため、色々な精神的な負担を我慢している。（肢体不自由／男性／70 歳／北区）

【事例 85】実兄より時々、お金をせびられる事があります。応じないと暴力を受けることがあります。（知的／男性／57 歳／秋葉区）

【事例 86】その人によって、何をしても出来ないと決め付ける人もいた。何事も健康な人より、時間がかかるので見守って欲しい。（知的／女性／26 歳／中央区）

【事例 87】妹が私を「気ちがい」と、言ってたこと。（精神／女性／42 歳／東区）

【事例 89】子供の頃から馬鹿にされた、今も。（知的／男性／57 歳／江南区）

【事例 90】理解のない人達からの偏見。（精神／男性／24 歳／中央区）

【事例 91】嫌な思いをした事はあるが、良い思いをさせてもらえたこともある。理解されるまではそれなりの自身の努力もかなり必要だった。（理解して頂ける様に）自然体で向き合うこと。（64 歳）

【事例 92】悪い時、公民館で習い事をしていた時、差別された。（顔が病気の顔をしていたと思う）（精神／44 歳／女性／北区）

【事例 93】普通免許を取得するために病名を告げた時は、いつも不審気な顔をされる。（精神／50 歳／男性／西蒲区）

【事例 94】以前働いていた同僚から、先輩の失敗を自分のせいにされた。（知的、発達障がい／25 歳／男性／東区）

【事例 96】地域に何か不具合な事が起ると、まず一番に疑われる事。（知的／27 歳／男性／秋葉区）

【事例 99】私本人に話を聞いてくれない。私がバカだと決めつけている。（肢体不自由／77 歳／女性／中央区）

【事例 100】車椅子マラソン等に出ても、テレビ中継をしてもらえない事。オリンピック等のユニホームも、健常者と障がい者、同じ物になぜしないのか。（肢体不自由／59 歳／男性／秋葉区）

【事例 102】人が話しかけてくれない。（音声・言語・そしゃく、精神、発達障がい／64 歳／女性／江南区）

【事例 103】近所の人に「車に乗れていいね。」と言われた。（たぶんその人は、精神障がい者は車に乗れないと思っている）（精神／53 歳／男性／中央区）

【事例 104】親類関係にある兄弟から、悪い言葉を浴びせられた。（音声・言語・そしゃく、知的、発達障がい／33 歳／男性／江南区）

【事例 105】外出時の不自由なことに対して、言葉で謝ったり、礼をしなければならず、面倒になって外出が億劫です。周囲の人に遠慮しなければならない。（視覚、発達障がい／57 歳／女性／東区）

【事例 106】馬鹿にされる。（知的／51 歳／男性／秋葉区）

【事例 107】見せることで態度が変わる人が多い。（精神、発達障がい／37 歳／男性／西区）

【事例 111】旅行などに誘ってもらえない。（肢体不自由／74 歳／女性／江南区）

【事例 113】病院にいると窮屈だから外出したい。（精神／53 歳／女性／中央区）

【事例 114】婚姻関係解消を申し立てられた。（発達障がい／36 歳／男性／東区）

【事例 116】「そんなことできないのか。」とか 色々。（肢体不自由／63 歳／男性／江南区）

【事例 117】精神障がい者手帳を持っているだけで、頭が変だと思われたり、見られたりします。精神障がいに対してもっと理解があってほしい。（精神／48 歳／女性／江南区）

【事例 118】バスの中で、女子高生に「おはよう」と声を掛けて、隣の席に座られたと、警察に苦情を言われたが、本人はバスを見ていただけ、その席が好きで場所に拘っていただけで、誤解だったので解ってもらえましたが、お互いに嫌な思いをしました。（知的、発達障がい／34 歳／男性／東区）

【事例 119】外見だけで人を見て、「どこにも障がいが無い」などと、皆で噂しあう。（肢体不自由／61 歳／男性／秋葉区）

【事例 120】一人で歩いている途中で、中学生などに「あいつは変な奴」と言われたりする。（知的／18 歳／男性／東区）

【事例 121】日常的に自分が家に住んでいるために、家族の人が世間から中傷されている事。特別な目で見られている事。（音声・言語・そしゃく、知的／43 歳／女性／東区）

【事例 123】無言電話・手紙などによる嫌がらせなど。（知的／87 歳／女性／中央区）

【事例 124】体調の良い日は外に出れるが、その時に近所の目が気になり、聞こえる声で「どこが悪いんだろう」と言われた。（うつなので、見た目的には普通の人と同じ）（精神／39 歳／女性／中央区）

【事例 125】転びやすいのでしっかり付き添っているのですが、それでも転んだ時、親切な方も多い中で、「親が悪い」とわざわざ言って通り過ぎられた時等。（知的／36 歳／男性／中央区）

【事例 127】病気に対して偏見がある。（精神／53 歳／男性／中央区）

【事例 128】アパートなどで近所の人から白い目で見られました。（精神／61 歳／女性／東区）

【事例 129】健康教室のとき、親子で参加していたのですが、娘は手をつないで踊る場面で手を繋いでもらえませんでした。（知的、発達障がい／33 歳／女性／西蒲区）

【事例 130】意地悪をされた。または、試されたのかもしれない。（精神／46 歳／男性／秋葉区）

【事例 131】人間の軽口、陰口、噂話等。バカにされる等。（聴覚・平衡機能、精神／59 歳／男性／西区）

【事例 132】「障がい年金を貰っている。」と隣の家に言われ、「働いていないで金をもらうために、病院に何もないくせに通っている。」と言われたり、家にいても子供に「働かない。」と責められてばかりいて、お金の不自由を言われている。（精神／56 歳／女性／西区）

【事例 133】嫌な顔をされた。（精神、発達障がい／41 歳／男性／中央区）

【事例 135】いじめ。（知的／54 歳／男性／中央区）

【事例 136】２０年前、初めて精神病院に入院した時は、とてもショックを受けた。他者にではなく、自分自身で精神病者なんだと認めなくてはならなかった事。（精神／42 歳／男性／西区）

【事例 137】地域社会が見る目が厳しいと感じている。（精神／61 歳／男性／江南区）

【事例 139】身内からの言葉の差別、暴力。１．おまえは、一族のはじだ。２．きちがいは、さっさと人間をやめろ。（精神／40 歳／男性／東区）

【事例 140】両親が亡くなり、兄も亡くなり、妹の家にいるが、相談する人もなく不安（金銭的にも）。（肢体不自由／74 歳／女性／南区）

【事例 141】精神病なので偏見の目で見られ、精神的苦痛を与えられる。（内部機能、精神／52 歳／女性／中央区）

【事例 142】家族…大事な行事には参加できない。（精神／62 歳／男性／東区）

【事例 143】病気のことがよくわからないくせに、仕事をしろと追い込む。病気が悪化して、東京に逃げて、ホームレスになって新潟に戻ってきて、やけになって、破産、保護観察、身内に破門。（精神／37 歳／男性／東区）

【事例 144】外見で判断され、攻撃される事。買物（24 時間営業では）必ず、「来るな。」と言われる。警察に連絡される。（精神、発達障がい／42 歳／男性／西区）

【事例 146】障がいだと解ると、診断されると（私の場合、自閉症、アスペルガー症候群）急に相手の人の態度が変わって嫌になりました。診断される前や、アスペルガー障がいがあると解る前にはひどい態度を取られていたのに、解ると急に態度を変えてやさしくなるなんて、最高にひどいと思いました。優しくすれば自閉症が治るとでも思っているんでしょうか。（精神、発達障がい／47 歳／女性／西区）

【事例 147】近所の人が、冷たくなった気がする。切ないです。（精神／41 歳／女性／東区）

【事例 149】小学生の子供に散歩中に、指をさされ「変な顔。」と言われた。（肢体不自由、知的／25 歳／男性／東区）

【事例 150】体の状態を見て、ひそひそ言われること。（音声・言語・そしゃく、肢体不自由／30 歳／女性／秋葉区）

【事例 151】近所の人に「この子と遊ぶな」と言われた。（知的／16 歳／男／東区）

【事例 152】指を差されたり、変な目で見られること。「大変ね」とよく言われるが、簡単に言ってほしくない。なぜなら、一般の方々が思っている以上に大変だから。（身内に居て、体験しないと分からないと思います）（肢体不自由／16 歳／女性／東区）

【事例 153】バギーに子供を乗せていたら「あっ！障がい児だ！」と 20 才くらいの女性に言われた。地元の祭で知らない子ども（5 才くらいの女児）に「何でベビーカーにまだ乗ってんだよ！」と言われた。近くにいた若い親は知らんぷりだった。（肢体不自由／13 歳／男性／江南区）

【事例 154】障がいがあるということを祖父母にさえ理解してもらえません。（発達障がい／14 歳／男性／西区）

【事例 155】子供同士遊んでいた、知らない子供に「手がない。気持ち悪い、怖い、やだ。」などと言われた。親は見ないふりで、子供には何も伝わらない。「生まれた時からなんだよ、変じゃないんだよ」とこちらが言い聞かせ

たが、「気持ち悪いね。」と。社会の理解度を思い知り、今後の復学への不安を感じた。（肢体不自由／3 歳／男性／中央区）

【事例 156】人と違うことで、仲間外れやいじめを受けた。（発達障がい／15 歳／男／江南区）

【事例 158】障がいの軽い重いは関係なく、ダウン症→知的障がい→出来ないを前提に評価される事が多々ある様に思います。一様に試す機会は、健常の方と同等にあって良いと思う。試す経験があった上で補助すべき点や、方法を考えるべきだと思う。障がい＝ダメや無視とせず、プラス足し算で行なってほしいです。（知的／5 歳／女／中央区）

【事例 162】鼻チューブ入れてて一言、言われた。ジロジロ見られる。「かわいそうに。」と言われる。（知的、肢体不自由／12 歳／男／北区）

【事例 163】呼吸器をしている子供について理解が得られない。（知的、視覚、肢体不自由／10 歳／女／江南区）

【事例 164】障がい者という言葉に差別を感じる。（知的障がいの為）バカと呼ばれる。（知的、発達障がい／14 歳／男／東区）

【事例 165】障がい者を差別的に見る方ほど、駐車スペースやエレベーターの使用の方法などのマナーが悪いように思います。（知的、肢体不自由／17 歳／男／西区）

【事例 167】保護者が職場などで障がいのことを報告すると、バカにしたような言葉をかけられた。（知的、発達障がい／11 歳／男／東区）

【事例 174】看護師資格があるにもかかわらず、見た目だけで「そんなわけない」と初対面の人などに言われることがある。初対面の人に見た目だけで「あららかわいそう」言われ、あれこれ世話をやきたがれる。余計なお世話というか逆に失礼だと思う。（音声・言語・そしゃく／34 歳／女性／東区）

【事例 176】発声が出来ないので相手にされず、馬鹿にされているように感じる。（音声・言語・そしゃく／69 歳／女性／東区）

【事例 177】大人の理解のない人の多い事。体が思うように動かないのに、意地悪をする人。（音声・言語・そしゃく／43 歳／男性／中央区）

【事例 178】耳が遠いから相談されない（区の集まりで）。（聴覚・平衡機能／82 歳／男性／南区）

【事例 180】自分の障がいを言ったら、「病気だから気持ち悪い。」と言われた事。（精神／26 歳／女性／西区）

【事例 181】言ってない事を誤解されて、「〇〇さんはおかしいよ」と怒って言われた事。（精神／26 歳／女性／西区）

【事例 182】暗い所が見えないという事を理解してもらえず、人とぶつかったりすると嫌な顔をされる。（視覚／44 歳／女性／東区）

【事例 185】私は障がい者になって２０年近くになりますが、私の障がいそのものを理解してもらえなかったです。理解してもらえないという事で、私自身が差別されていると感じるのは当然です。自分自身でも障がいについて差別しているくらいですので。（精神／46 歳／男性／西区）

【事例 186】精神的なことで「理解不足気味」と言われて落ち込みました。（精神／42 歳／女性／西区）

【事例 187】「あの人は話すことができない」と、伝えなくていい人にまで言われることがある。（音声・言語・そしゃく／48 歳／男性／江南区）

【事例 188】耳に補聴器を付けていても良く聞こえない為、医者へ行ったり、人前に出ても相手の言っている事が良く理解できず、誤解を招くことがたびたびある。ひそひそ話をして、苦笑いをされる事が、あまり気分の良いものではない。（86 歳／女性／北区）

【事例 193】白杖についての一般の方々の認識が低いように感じることがあります。 特に中高年の方の認知が低いように感じます。白杖を見て、道をあけてくれたり、声をかけてくれたりするのは若い人（20 代くらいまで）が圧倒的に多いです。中高年の方は、白杖をついて歩いていても、ベルを鳴らしながら自転車で追い越そうとしたり、ぶつかってきたり、ぶつかってきても何も云わないで通り過ぎたりします。

【事例 194】知的障がいのある娘を産んだことで、夫と離婚し、シングルマザーになった。生活苦のために、古町の違法な性風俗店（ソープランド）で働いているが、年齢もあって、満足な生活費を稼ぐことができていない。飲食店などのアルバイトを掛け持ちするも、精神障がいがあるため、長続きしない。周りからは、生活保護を受給することを勧められているが、本人はﾌﾟﾗｲﾄﾞが高く、受給を申請しようとは、決してしない。（精神／30 代／女性）

【事例 195】障がい者と一緒に、家具引取りに行った際、「どうして障がい者を連れて来るのですか？」と問い質された。「10 年間この仕事を応援してもらい、何でもできる。」と説明したが、それでも「もう二度と連れて来ないで下さい。」と言われた。（知的／23 歳／男性／西蒲区）